



教育活動の重点キーワード

「縄南道」の形成、「心・技・体」の研鑽

「全力疾走」あるのみ！ 「縄南道」で取り組んだ体育祭！

6月23日（火）、本校の第29回体育祭を開催しました。当初の予定は21日（日）でしたが、その日は突然の雨が局地的に降り、本校の体育祭も朝7時の段階ではグラウンド整備をして1時間遅れの10時開催と判断しましたが、午前8時を過ぎても雨が止まず順延の決定を余儀なくされました。21日（日）開催に予定を合わせ、いろいろな準備をして下さっていたPTA役員の皆様や校区校外指導協議会の皆様をはじめ、ご来賓や保護者の皆様にはご足労をかける結果となりました。結果的に体育祭は23日（火）に仕切り直しとなり、この日もまた多くの方々のご尽力に支えられながら体育祭を開催しました。

縄手南中学校は日頃から「日本一」を目指して前進しています。この体育祭も当然「日本一」の体育祭を目指して取り組みました。「日本一」の体育祭であるために「縄南道」で心がけようとしたことは、まず、「体育祭を開催するにあたりPTA役員の方々や校区校外指導協議会の方々を中心とした地域の方々、自分たちのために多くの時間を使って会議や打ち合わせをして準備して下さっていることを知ること。」「来校されるご来賓の方々、縄手南中学校のためにわざわざ時間の都合をつけて下さっていること。」「体育委員や実行委員、陸上部、生徒会本部役員等に代表されるように、自分たちの仲間、縁の下、力持ちがいること。」「お家の方々、朝早くからお弁当を作る等、自分を応援して下さっていること。」「です。これらの方々の思いに応えるのは「全力疾走」です。「縄南道」における「勝因」の1つである「一生懸命」で応えることを全員で確認しました。3年生は組体操やチアダンスに挑み、結果として崩れることもあるでしょうがそれでも全力を貫くこと。競技の途中でこけてしまったりバトンを落としてしまったりすることもあるでしょうがそれでも全力疾走を貫くこと。走るのが得意な者もいれば不得意な者もいるけれど、得意であろうが不得意であろうが全力疾走を



旭堂南青さんによる見どころ講談(左)と、
3年生塩屋くんと蛭原さんによる選手宣誓(右)



3年生男子組体(上段)と女子チアダンス(下段)

貫くこと、一生懸命に全力を尽くしている仲間には結果はどうあれ心から大きなエールを贈ること。の体育祭を裏方として支えてくださっている方々や、保護者の方々を含めてこの体育祭を楽しみにして下さって来校される方々は、決して縄手南中学校生の適当でいい加減な姿を見に来られているのではなく、一生懸命にひたむき取り組んでいる全力疾走を楽しみに見に来られているということ。これらのこと心で感じながら取り組もうと意思確認しました。当日を迎えるまでの全体練習では、華である開会式のあり方や、3年生の組体操とチアダンスでは演じる3年生だけではなく、1・2年生を含めた全員が創り出すグラウンドの「空気」の大切さにこだわってきました。他の演技や競技も入退場や観覧を含めてこだわりました。雨で延期が決まった時は、モチベーションの維持にも生徒全員で集会を通して確認をしました。当日は多くの方々から「感動をいただきました。ありがとうございました。」「立派な生徒さんたちですね。」とお褒めの言葉を頂きました。今回の体育祭を振り返り、当日までの全体の準備やクラスでの準備を含め、使用した教室や道具の後片付けや掃除がきちんとできていたこと、係りの生徒が一生懸命に素早く行動していたこと、当日、全員が全力疾走を胸に頑張っていたこと、移動を含めグラウンド内を歩く生徒が誰1人としていなかったことが体育祭成功に繋がりました。閉会式では「頑張った自分を褒めてください。」と全校生徒に伝えました。

応援賞は全クラス！

今回の体育祭の応援賞は学年から選考するのではなく、応援賞にふさわしいクラスをすべて表彰することとしました。生徒にはその基準を事前には伝えていませんでしたが、今年度の表彰基準として、「自分のクラスを一生懸命応援するのは当たり前、他のクラスや学年までエールを贈っている。」ということとしていました結果はすべてのクラスがそれをやっていたので全クラスに応援賞としました。

こんなプログラムもありました

今回のプログラムの中には、開会式で本校アドバイザーの旭堂南青さん（上方講師）による本日の見どころの紹介、竹中淳子さん（フリーアナウンサー）によるお昼の放送「縄南アフタヌーンミュージック体育祭特別バージョン」とクラブ紹介・対抗リレーの実況アナウンスがありました。「縄南アフタヌーンミュージック」にはゲストとして本校PTA会長の松井会長様が出演して下さいました。

「日本一」、その瞬間のキミの行動は？ ～自分自身が日本一にチャレンジするために！～

縄手南中学校が目ざすのは「日本一」ですが、日本一となるために、そして縄手南中学校全員で日本一となることを掴みとるために、1つ1つの行事や取り組み、そして毎日の繰り返しを常に次の目標へとステップアップさせなければなりません。1つの例として体育祭を取り上げてみましょう。例えば、スタート直後に転倒し最下位になることが予想されてしまったその一瞬をとらえて見ると、当然「それでも全力で最後まで走りきる」ことが大切です。その瞬間のシーンを切り取って見ると、そこであきらめて手を抜く姿は日本一に挑戦するには論外の姿です。最下位になることが予想されてしまっても、全力疾走していたらもしかしたら前の走者が全員その後転倒することだってあるかもしれません。自分が転倒した瞬間に勝負がつくのではなく、その後の自分の姿が勝負を決めるのです。そしてたとえ最下位で終わっても最後まで全力疾走をするその姿は、日本一の感動を与えることができる姿であるかも知れません。また、組体の技を失敗してしまったけどその後も全力で声を出して最後まできびきびやり通した瞬間のシーンと、失敗したからそれをひきずったまま覇気のない顔で適当に演技をする瞬間のシーンを比べてみても、どちらが日本一を目ざして取り組む姿かと考えれば、縄南道に学ぶ縄手南中学校の生徒なら瞬間に判断できると思います。こうして自分自身のことを、「今、この瞬間のシーン」を冷静に眺めてみると、自分がやらなければならないことがはっきりわかります。縄手南中学校は「日本一」を目ざしています。すべての瞬間を大切にして下さい。